

1 ノクティス **Noctis:影と光のガラスアート** 展示室1-3 [2・3F]

2026年 3月7日[土] ▶ 6月21日[日]

闇の中に浮かび、またたき、揺らめく光は、謎に満ちた夜の世界への想像力を育んできました。19世紀から現代にかけて、ガラスを素材とした作品は、豊かな象徴性や幻想性を帯びたものとなります。本展覧会では、ガラスならではの光が生み出す影の美しさ、そしてその影が表現する神秘的な夜と闇の魅力に迫ります。



木下結衣《余波》2023年 富山市ガラス美術館所蔵 撮影:末正真礼生

2 ブリリアント カラー **Brilliant Color** 展示室1-3 [2・3F]

2026年 7月11日[土] ▶ 10月12日[月・祝]

色鮮やかなガラス瓶やビー玉。色ガラスは、そんな身近な記憶と共に私たちの心をときめかせてきました。19世紀初頭から化学の発展を背景に、職人たちやデザイナーは新しい色を求めて実験を重ね、豊かな色彩表現を生み出します。本展では、色ガラスの普及、素材や技法の革新、暮らしへの広がり、現代への継承という4つの視点から、コーニング・ガラス美術館を中心とする約150点の作品とともにその魅力を紹介します。

This exhibition is organized at the Toyama Glass Art Museum in collaboration with The Corning Museum of Glass.



ルイス・コンフォート・ティファニー《Iridescent Gold and Green Vase》1900-1903年頃 CMoG 63.4.116, Gift of Fletcher Ford and Mrs. Sally Recker in memory of Lola Kincaid Ford, Courtesy of The Corning Museum of Glass, Corning, NY.

3 **フィンランド スピリット サウナ** 展示室1-3 [2・3F]
—自然と生きる温もりの文化—

2026年 10月31日[土] ▶ 2027年 1月24日[日]

今日サウナ大国として知られるフィンランド。健康効果を得るだけでなく、生死にまつわる神聖な場、団らんや相談といったコミュニケーションの場として、サウナは古くから人々の暮らしと密接に結びついてきました。本展覧会では、多様な展示物を通して、フィンランドの社会や精神性に息づくサウナ文化に迫ります。



ヨルマ・ヴェンノラ《Sauna》1979-1982年 個人蔵

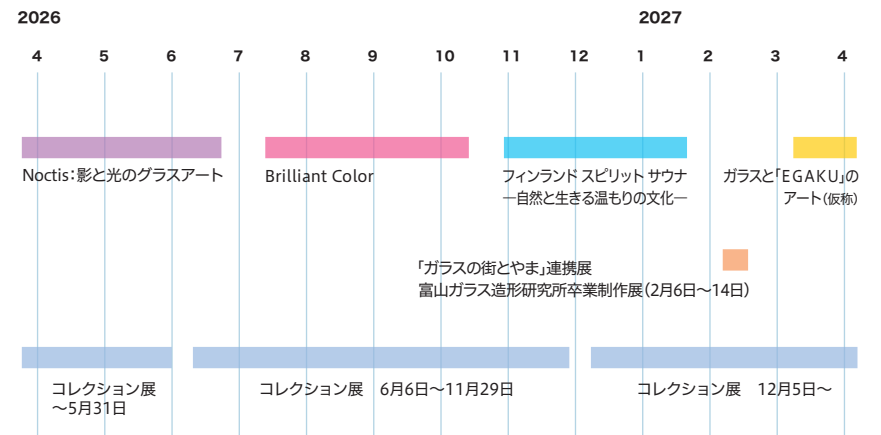
4 **ガラスと「EGAKU」のアート(仮称)** 展示室1-3 [2・3F]

2027年 3月6日[土] ▶ 6月20日[日]

本展は1950年以降に制作された現代ガラスアートを中心に、ガラスであるからこそ可能な「えがく」手段や表現、その意義に迫ります。ガラスに直接絵付けを施す作品から、その特性を活かしてガラスそのもので「えがく」作品、さらにガラスそのものを題材として「えがいた」作品など、ガラスと「えがく」の関係性から生まれる多彩な世界をお楽しみください。



池本一三《SCENE 0202》2002年 富山市ガラス美術館所蔵 撮影:末正真礼生



※記載内容は変更する場合があります。